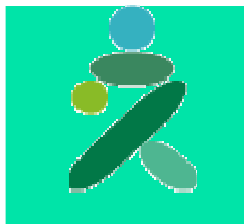


効果的なグループ討議法

ファシリテーター

岩田好司



久留米大學

KURUME UNIVERSITY



はじめに:研修の趣旨と目標

◆ 趣旨

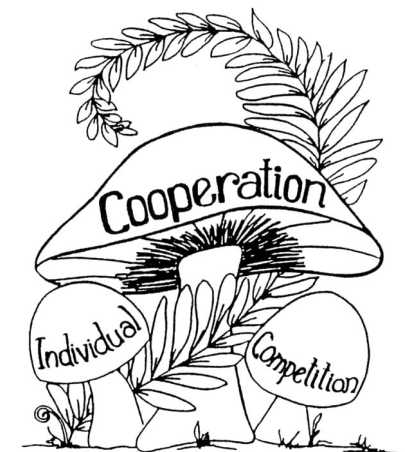
協同の観点から、効果的なグループ討議の仕方、させ方(ファシリテーション)を学び、実践する。

◆ 学習目標

1. 協同に基づくグループ討議の考え方や技法を協同学習(話し合い学習)を用いて学び、理解する。
2. 協同によるグループ討議を実践できる。
3. 身に付けた技法を実際に使って教育ファシリテーション(話し合い、学び合いを促進すること)ができる。
4. 協力して学ぶ効用(喜びや楽しみ)を実感する。

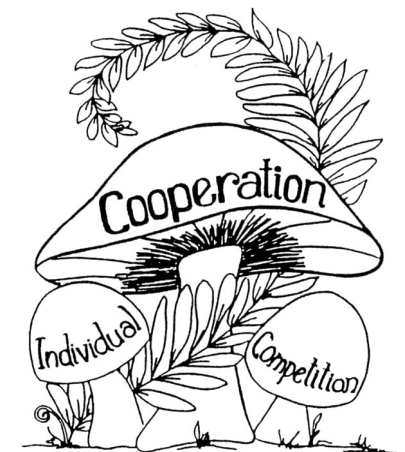
研修の見通し

1. グループ討議の環境作り(30分)
2. 協同によるグループ討議(20分)
3. 協同による意思決定(25分)
4. グループ討議の実践(50分)
5. ふりかえり(15分)



1. グループ討議の環境作り

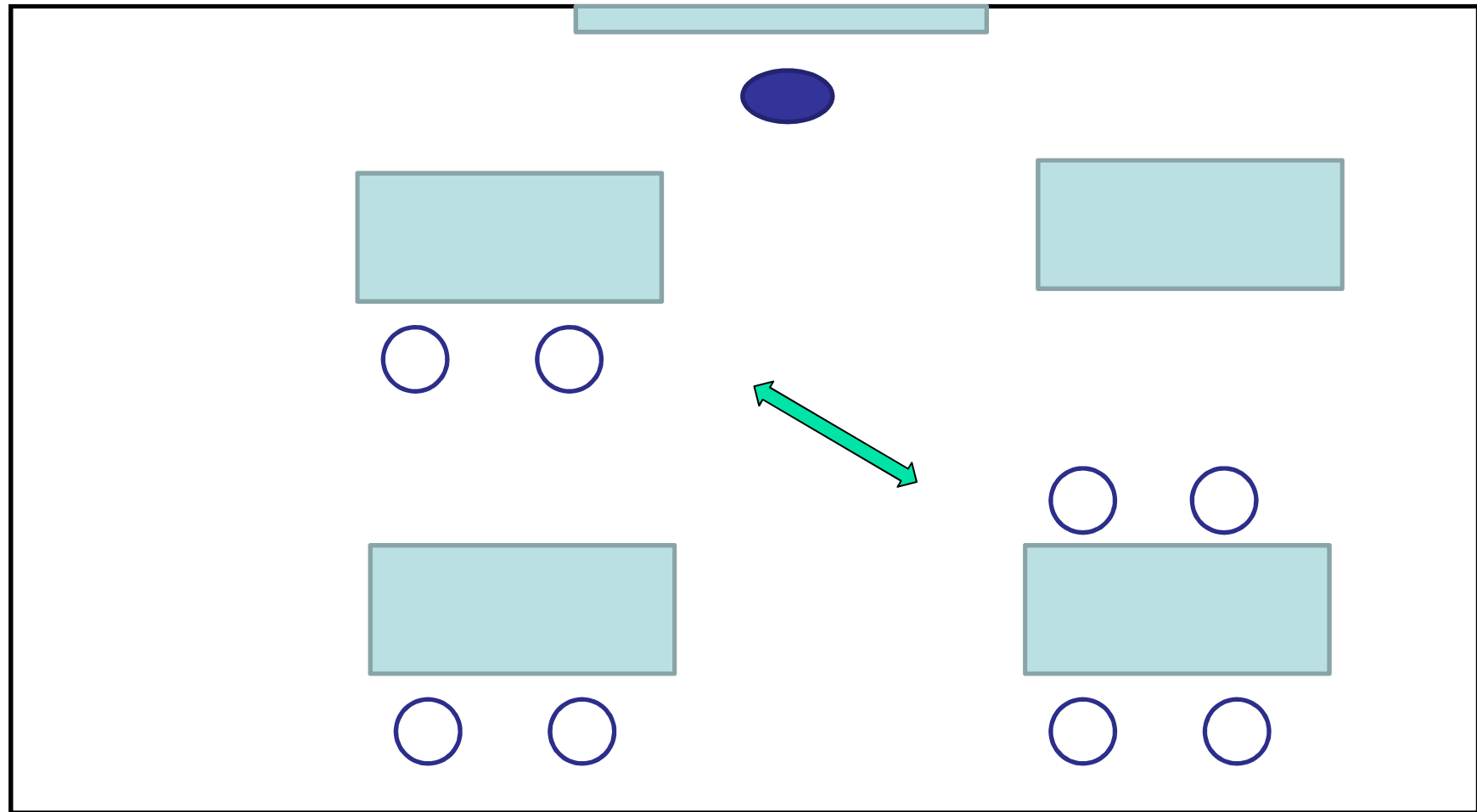
- ❖ グループ編成
- ❖ 仲間作り



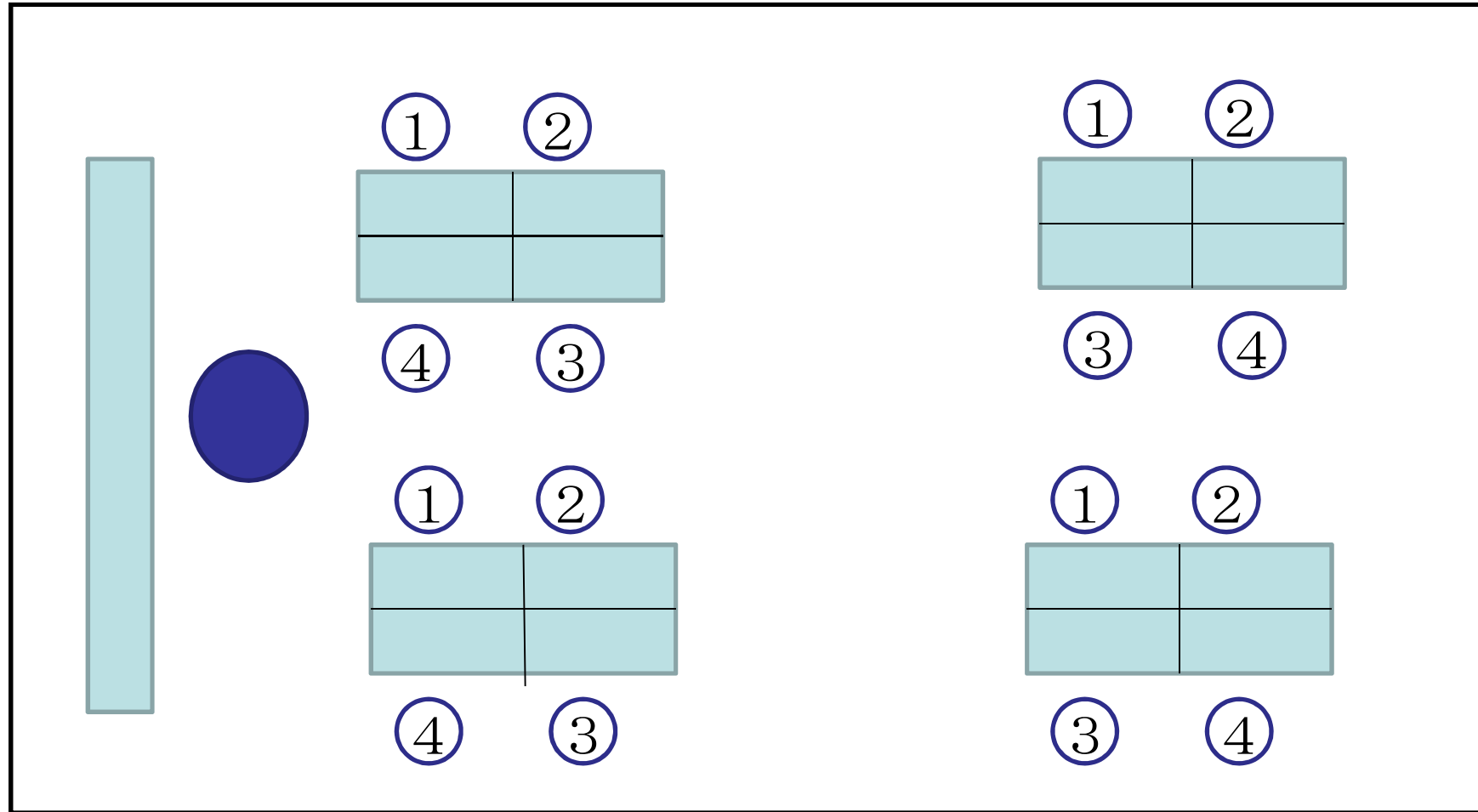
グループ編成

- ❖ 教室のアレンジ
 - ❖ 講義形式の配置
 - ❖ グループ学習の配置
- ❖ 何人グループ？
 - ❖ 異質性(多様性訓練)
 - ❖ 知らない男女交互に4人
- ❖ 編成方法

講義形式とグループワーク



講義形式とグループワーク



ファシリテーターの自己紹介

- ◆ 岩田好司(イワタ ヨシノリ)
 - ◆ 所属:久留米大学外国語教育研究所
 - ◆ 教育研究領域:外国語教育学(フランス語)・異文化間コミュニケーション論・協同教育・ホリスティック教育・プロセス指向心理学(プロセスワーク)
 - ◆ 住んでいるところ:
 - ◆ 好きな食べ物:
 - ◆ 研修への期待:

仲間作り

❖ 手順

1. 6人組で行います(①~⑥を決める)。
2. 各自、以下の4項目の自己紹介を考える(1分)。A.氏名と所属、B.住んでいるところの紹介 C.好きな食べ物 D. 研修への期待
3. ①の人から自己紹介を始める(1分程度)。終わったら②がそれを復唱する(エコーイング: メモ禁止)。終わったら①に正確かどうかを尋ねる。
4. 以下同様に②、③、④…と回します。技法: “ラウンド=ロビン”)。③が全体のタイムキーパー。
5. 時間が余ったら雑談してください。

技法の説明:「ラウンド=ロビン」(順番に話そう)

■ 手順

1. 教師は複数の答えのある課題や質問を与える。
2. 個人思考の時間をとる。
3. グループ内で、順番に(だいたい同じ時間を使って)口頭で答えや考えを述べていく。
4. 時間が余ったら、皆で話し合う。

■ 注意事項:①傾聴する ②さえぎらない ③心のノート

■ 効果:参加の平等性を確保する。「小さな声」を聴く。

構 造 化

課題明示



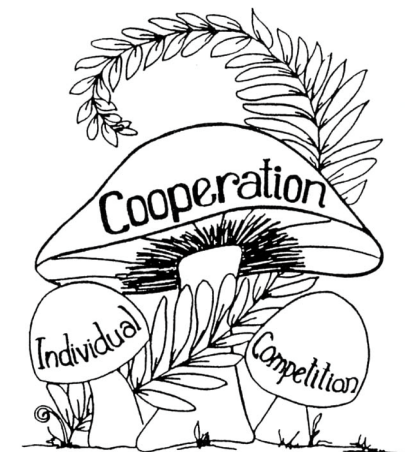
個人思考



集団思考

研修の見通し

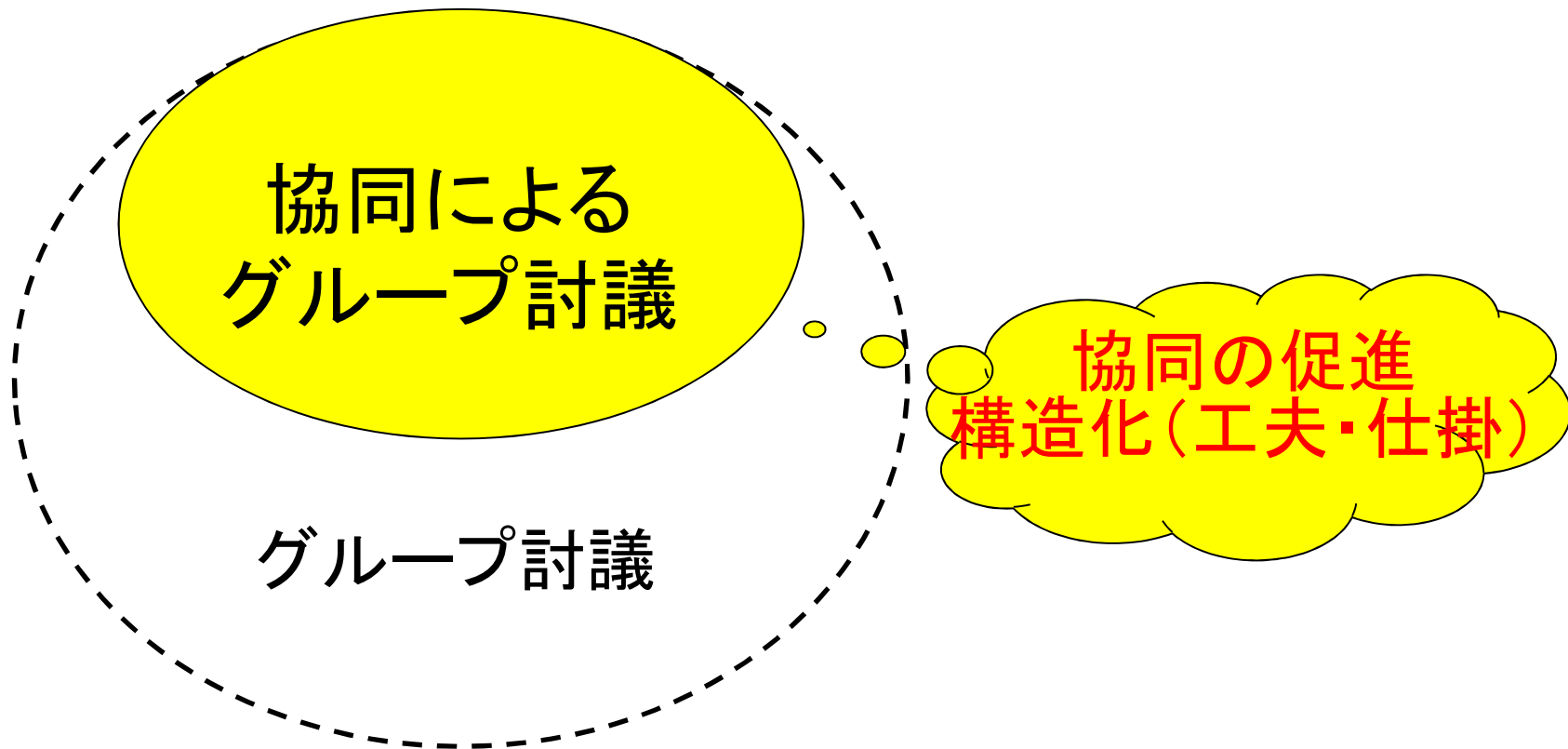
1. グループ討議の環境づくり
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



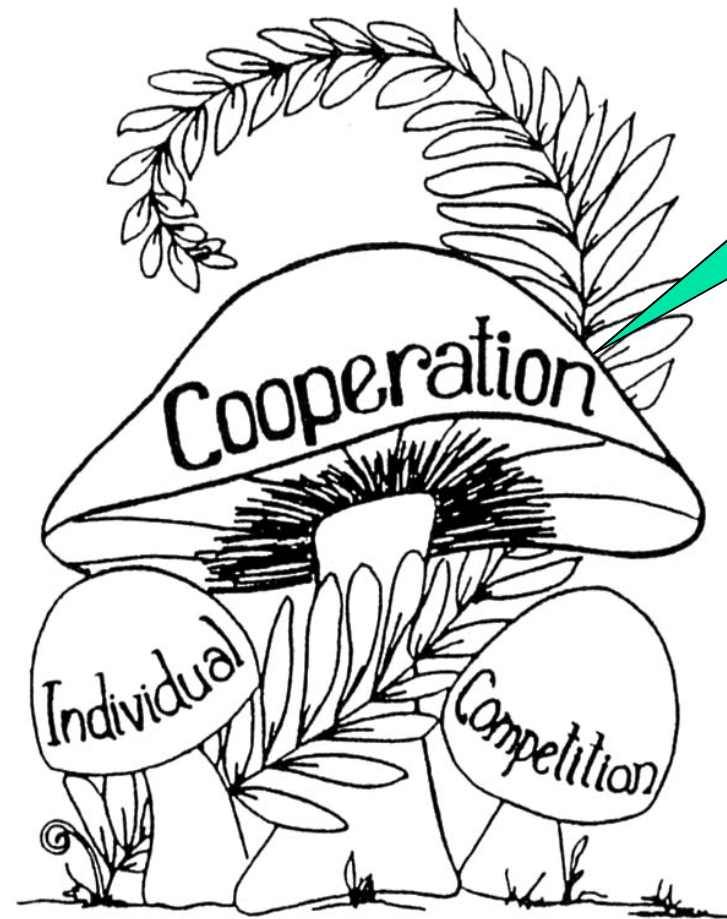
2. 協同によるグループ討議

- ❖ 協同によるグループ討議
- ❖ 協同の考え方
- ❖ 協同を促進するための工夫
- ❖ 確認タイム

協同によるグループ討議



個別、競争、協同:協同の理念 こころ、教室、社会、葛藤解決(話し合い)



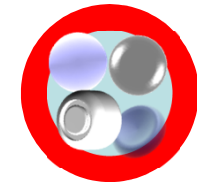
協同のソフトスキル:
「1人は皆のために、
皆は1人のために」

[出典]: Johnson&Johnson, Holubec (1988) *Advanced cooperative learning*.

協同を促進するための工夫

1) 互恵的協力関係(他のメンバーが目的を達成できない限り、自分の目的も達成できない関係)を生み出す工夫

- 目標の共有
- 役割分担(ファシリテーター、書記、スケジュール係、「ありがとう」係、観察・チェック係、発表係、参加者ファシリテーター)
- 学習資源(情報)の共有
- 作業自体に埋め込まれた協力



2) 個人の責任を確保するための工夫

- 手順や役割り(ルール)の明確化(「グループの誰が当たっても答えられるようにしてください」)
- 平等参加を指示(「発言量が平等になるように配慮してください」)
- ランダムに当てる
- 個別テストを行う

確認タイム

- 課題:「協同を促進するための工夫」を説明する。
- 手順
 1. 個人思考(1分間)
 - 自分の言葉で説明できるようになる。
 2. 集団思考(ペアで確認、2分間)
 - お互い話し合って理解を深める。
 3. 誰かが話し合いの内容をクラス(グループ)に報告する。

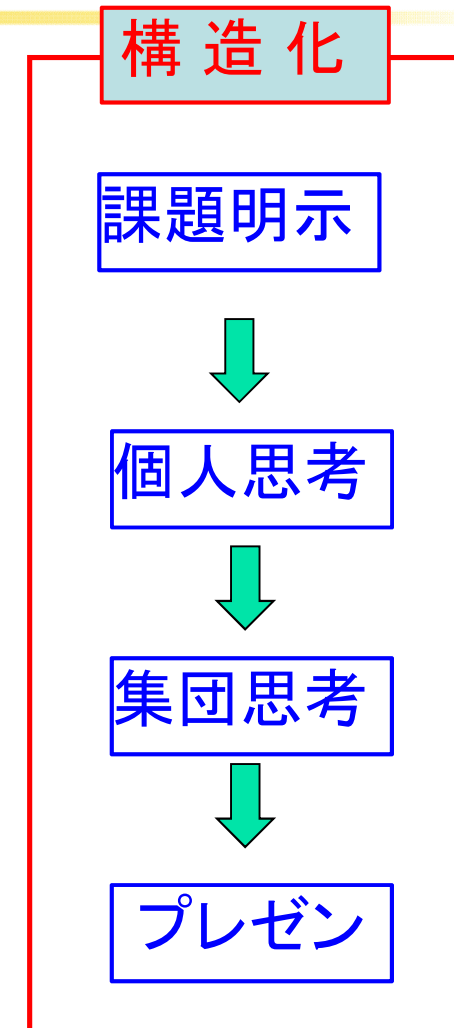
＊技法 “**シンク＝ペア＝シェア**”

技法の説明: シンク=ペア=シェア

■ 手順

1. 教師が複数の答えが可能な問題を提示する。
2. 個人思考の時間をとる(Think)
3. ペアで話し合う(Pair)
4. 教師が無作為に当てる。当てられた学習者は、ペアで話し合ったことをクラス(グループ)に発表する(Share)

■ 効果: 個人の責任の明確化。



誰の役割？

①各グループ討議に際してのチェックリスト

	模範的	有能	発展途上
参加度	☐ グループ全員 が均等に意見を出し合えた。 ☐ すべてのメンバー が平等に参加し、貢献した。 ☐ 参加者全員 が助け合い、励まし合い、認め合い、高め合った。	☐ グループ全員がおおむね均等に意見を出し合えた。 ☐ ほぼすべてのメンバーが平等に参加し、貢献した。 ☐ 参加者全員がおおむね助け合い、励まし合い、認め合い、高め合った。	☐ グループのうち、自分の意見を出さないものもいた。 ☐ 一部のメンバーへの過度な依存がみられた。 ☐ 参加者全員が相互に対等な協力関係ではなかった。
対話技法	☐ 複数との対話や検討により、様々な視点から意見を交わし、互いに理解を深めることができた。 ☐ 発言が滞る時には、 <u>個人思考したり、発言の順番を回したり(ラウンド＝ロビン)</u> 、傾聴したりして討議を促進できた。 ☐ コンセンサス法(主張、傾聴、受容、納得)が実践できた。	☐ 複数との対話や検討により、様々な視点から意見を交わしたものの、互いの理解はあまり深まらなかった。 ☐ 発言が滞る時には、個人思考したり、発言の順番を回したり(ラウンド＝ロビン)、傾聴したりして討議を促進しようとした。 ☐ コンセンサス法(主張、傾聴、受容、納得)がほぼ実践できた。	☐ 様々な視点から意見を交わすことができなかった。 ☐ 発言が滞る時に、討議を促進するための有効な手がうてなかった。 ☐ 一部の人が意思決定を主導し、コンセンサス(主張、傾聴、受容、納得)はあまり考慮されなかった。
時間管理	☐ 議論の内容と時間配分をあらかじめ定め、適切に実行できた。 ☐ 導入とふりかえり時間を取り、グループ作業の効率化と改善をはかることができた。	☐ 議論の内容と時間配分をあらかじめ定めたが、適切ではなかった。 ☐ 導入とふりかえり時間をとったが、グループ作業の効率化と改善にはあまりつながらなかった。	☐ 議論の内容と時間配分をすみやかに決定できなかった。 ☐ 導入の時間が長すぎたり、ふりかえり時間を取ることができなかった。

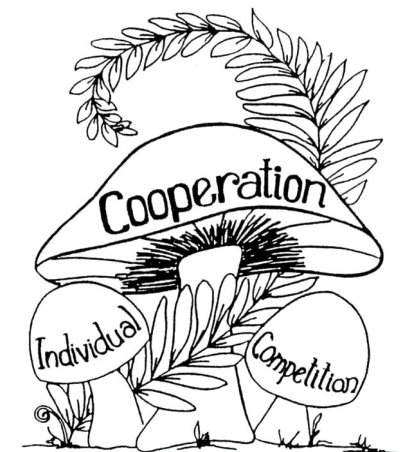
各討議の導入とふりかえり(例)

- 導入
 - 今日の調子(ラウンド＝ロビン)
 - ウォームアップ・エクササイズ(オプション)
 - 本日の予定(スケジュール係)
- ふりかえり
 - チェックリストの結果報告(チェック係)
 - 改善のための話し合い(オプション)
 - 「ありがとう見つけ*」(ラウンド＝ロビン)

*「ありがとう見つけ」:今日のグループ討議をふりかえり、左隣の人に順番に感謝していきます「～さん(具体的に)～してくれてありがとうございました」

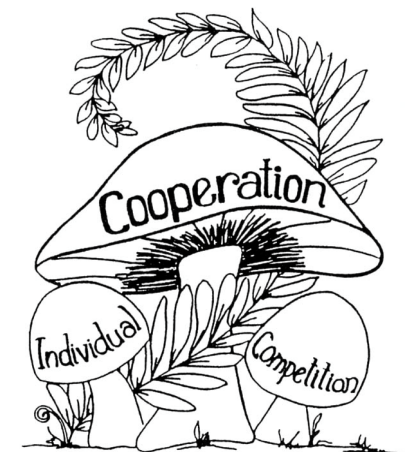
研修の見通し

1. グループ討議の環境作り
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



3. 協同による意思決定

- ◆ 互恵的討議による意思決定
- ◆ エクササイズ
- ◆ 質問タイム



互恵的討議による意思決定

- コンセンサス法: 互いに主張し合い、傾聴し、受容し合い、納得して結論に至る。自分のため、相手のため、みんなのためを考える互恵的＝協同的意思決定。
- コンセンサス法の留意点
 1. 納得できるまで話し合う。意見を変える場合はその理由をメンバーに説明する。
 2. 安易な妥協、取引、統計、多数決はしない。
 3. 自分の意見を通そうとして、異なる意見を排除しない。
 4. 少数意見を尊重する。なぜそう思うのかをよく聴き、みんなで検討する。

＊技法:好きなだけ読み、いっしょ読み

エクササイズ

- 課題: 次の項目は討議の留意点です。まず、各自、項目の優先順位(ベスト3)とその理由を思考しなさい。次に、グループのベスト3をコンセンサス法によって決定しなさい。誰が当たっても理由を説明できるように配慮しなさい。
 1. 自分の実感や体験に基づいて対話する
 2. 参加者はすべて対等である
 3. 他者に対する先入観を捨てる
 4. 他者との対立やズレを積極的に見つけ展開する
 5. 自他の意見が変容する可能性に対して常に開かれている

出典: 中島義道『＜対話＞のない社会』PHP研究所

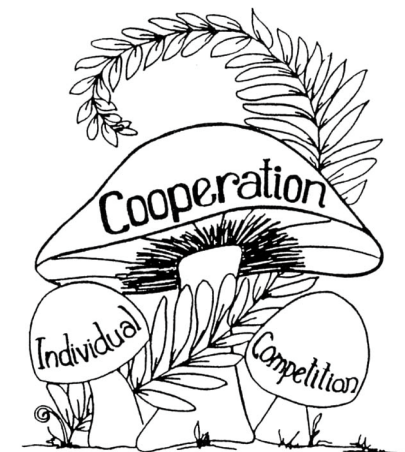
質問タイム*

- 課題: 今までのところで、腑に落ちていない点を整理する。
- 手順
 1. 個人思考
 - 腑に落ちていない点をメモする。
 2. 集団思考
 - ペアで話し合う

*技法: “TTT (Team Then Teacher: 先生に聞く前にグループメンバーに聞こう)”

研修の見通し

1. グループ討議の環境作り
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. **グループ討議の実践**
5. ふりかえり



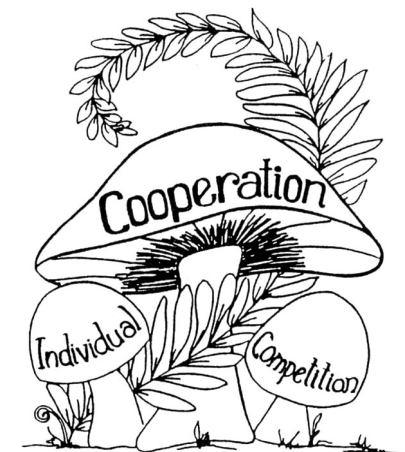
4. グループ討議の実践

- 課題: 各人のアイデア(考え)を分類・整理し、最終プレゼンのタイトル(サブタイトル)を決定する。
- 手順:
 1. [個人思考]: 「発表要旨」などを参考にテーマに関する自分のアイデア(考え)を書き出す。Post it一枚に一項目。質より量。後でも追加可。(5分)
 2. [集団思考]: 全員でPost itを模造紙上に分類整理していく。まとまりごとに、その内容をもっともよく表す、カテゴリー名をフェルトペンで書く。カテゴリー間に関係や動きがあれば線や矢印で結ぶ。(15分)
 3. コンセンサス法を使って、プレゼンのタイトル(サブタイトル)と班名を決定する。(10分)。
 4. プロセスと結果の発表。
 5. わかちあい。

* 技法: 「アフィニティ=グループピング」(バークレイ他, 2009)

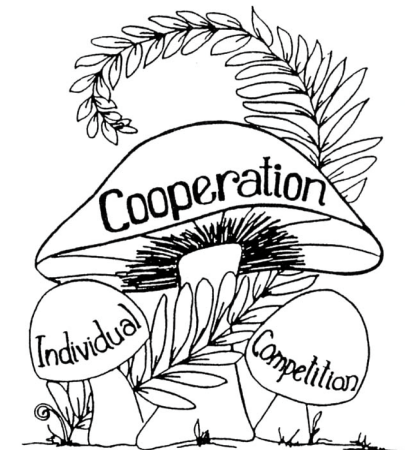
研修の見通し

1. グループ討議の環境作り
2. 協同によるグループ討議
3. 協同による意思決定
4. グループ討議の実践
5. ふりかえり



協同を促進する工夫(技法)

1. 傾聴とミラリング
2. ラウンド＝ロビン(順番に話そう)
3. シンク＝ペア＝シェア
4. 好きなだけ読み、いっしょ読み
5. コンセンサス法(納得法)
6. TTT(質問タイム)
7. アフィニティー＝グルーピング



5. ふりかえり(二重のふりかえり)

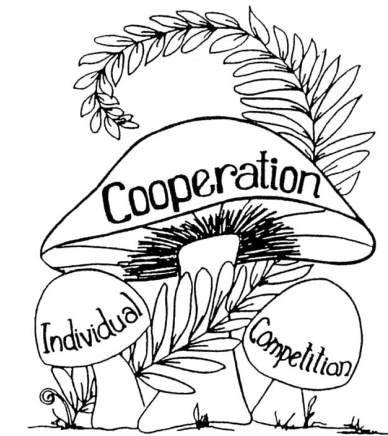
- 課題:研修の学び、グループ活動をふり返る。
 - 学んだ内容の中で、もっとも印象に残っている内容を一つ紹介する。
 - グループで学んだ感想やグループワークの改善点を述べる。ともに学んだ仲間感謝する。
 - オプション:「ありがとう見つけ」*
- 方法
 - 個人思考(1分間)
 - 集団思考(1分X6:③がタイムキーパー)
 - 技法“ラウンドロビン”

*「ありがとう見つけ」:今日のグループ討議をふりかえり、左隣の人に順番に感謝していきます「～さん(具体的に)～してくれてありがとうございました」

これからの学習のために

- ❖ 協同学習ワークショップ(ベーシック、アドバンス)
 - ❖ 日本協同教育学会:
<http://jasce.jp/1031workshop.php>
- ❖ 書籍
 - ❖ ジョンソン他 (2001), 『学生参加型の大学授業』, 玉川大学出版部.
 - ❖ ジェイコブズ他 (2005), 『先生のためのアイデアブック: 協同学習の基本原則とテクニック』, 日本協同学会.
 - ❖ バークレイ他 (2009), 『協同学習の技法: 大学教育の手引き』, ナカニシヤ出版.
 - ❖ ジョンソン他 (2010), 『学習の輪』, 二瓶社.

- ❖ ともに学べたことに感謝いたします。
ありがとうございました。



岩田好司